

第3章 基本目標と施策の大綱

まちづくりの理念と将来像に基づき、4つの基本目標を定め、施策を展開していきます。

基本目標	施策の大綱	各施策
豊かな自然に包まれ、だれもが住みよく、安心・やすらぎを感じる「まち」づくり	①豊富な資源の管理と有効活用 ②持続可能な循環資源の利用 ③安心して暮らせるまちづくり ④雪に強く住み続けられる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな森林の保全／魅力ある農村・農地をつくる／適正な土地利用／快適で潤いのある水環境 再生可能エネルギー利用の推進／環境・景観の保全／廃棄物処理を推進／環境美化推進 安心して暮らせる医療体制／思いやりのある福祉環境、健康づくりの推進／心、情報、交通のバリアフリー／サイバーセキュリティ 道路／居住環境・住宅整備／雪に強いまちづくり、防災、気候変動対応／既存建築ストックの有効活用
夢を持ち郷土を愛する「ひと」づくり	①子育てしやすい環境づくり ②次世代の人材（財）育成 ③文化・スポーツ等を核とした地域活性化 ④新たな人の流れの形成	<ul style="list-style-type: none"> 子育て環境の充実・維持／安心して子どもを産み育てられる環境／白鷹の子どもを育成 地域・人を知る教育の推進／質の高い教育を推進／高等教育等の充実／次代の親育成 芸術文化、伝統芸能、スポーツ推進／生涯学習推進 U・I・Jターンを推進／交流推進／起業・就業支援／地方創生の推進
地域資源を活かし、魅力と活力にあふれる「しごと」づくり	①白鷹らしい産業の振興 ②生産性向上に向けた環境整備 ③稼げる産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> 農業（経営体の育成・確保、スマート農業の実現）／林業（成長産業化、新たな森林管理システムによる森林経営管理の集積・集約化）／商工業（事業承継、適切な新陳代謝の促進）／食×観光 安心できる労働環境／産業人材の育成／新たな産業の創出 若者が魅力を感じる産業づくり／豊かな資源を生かした特産品開発／6次産業化の推進
地域の個性を磨き、「連携する(つながる)」まちづくり	※「まち」「ひと」「しごと」3側面をつなぐ取組	<ul style="list-style-type: none"> 特性を生かしたそれぞれの地域づくり／地域の担い手育成／コンパクト・プラス・ネットワーク／広域連携（定住自立圏等）

「基本計画」策定プロセスで各施策に対する事業を具体化

第4章 基本構想の推進に向けて



- ①情報の共有と町民主体のまちづくり
- ②民間活力の活用と官民連携による新たな取組
- ③国、県、関係市町との連携

本文は町ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

【意見・問い合わせ】企画政策課企画調整係 ☎ 85-6123 [FAX]85-2128

[E-mail] kikaku@so.town.shirataka.yamagata.jp



第6次白鷹町総合計画

— 基本構想 —
を策定しました

町では、今後のまちづくりの指針となる新たな総合計画の策定を進めています。総合計画は、「基本構想」、「基本計画」で構成されますが、平成30年度は、まちづくりの方向性を示す基本構想を策定しましたので、その概要をお知らせします。

基本構想の策定にあたっては、既の実施したまちづくりアンケートや、まちづくり座談会、各関係団体との意見交換、パブリックコメント、白鷹町まちづくり町民会議といった、幅広く町民の皆さんからの意見を頂戴して進めてきました。

平成31年度には、この基本構想の実現に向けた具体的な施策を記述する基本計画を策定する予定です。

第1部 序論

●計画期間

基本構想	平成32年度～平成41年度（10年間）
基本計画	前期：平成32年度～平成36年度（5年間）
	後期：平成37年度～平成41年度（5年間）

第2部 基本構想

第1章 まちづくりの理念

①住んでいる人が愛せるまちづくり

②安心で安全なまちづくり

③改革と自立のまちづくり

共創のまちづくり

「共創のまちづくり」とは…

町民と行政がそれぞれの役割と責任の下で、相互の立場を尊重し、情報を共有しながら、対等な関係に立って協力していく「協働」の理念を踏まえ、多様な主体との連携により新たな価値を生み出し、創造、発展していくことをめざすものです。

第2章 将来像

「人、そして地域がつながり 輝き続ける 潤いのまち」

知恵や技術、教育や文化など、脈々と地域に受け継がれてきた「歴史」は、先人の日々の営みの軌跡であり、人と地域とをつないできた恵みです。この受け継がれた遺産は、生き生きと働き生活する「人」や、豊かな「自然」と一体となって、未来へとひらかれた心豊かな「潤いのまち」を育んできたものです。

この心豊かな「潤い」を源流として、人と人、人と地域、そして地域と地域とが、交通インフラの整備や情報通信技術の発達により、地域内交流から国際交流まで多様な形でつながり、今までにない流れ、対流を生み出しています。この新たな対流を的確に捉え、地域外に住みながらこの地域に関わっていく関係人口の増加や、これまでにない広域的な市町村連携を促進しながら、町民一人一人が生き生きと活躍し輝く、未来につながるまちをめざします。